大阪広域生コンクリート協同組合　The Ready-mixed concrete cooperative of Greater Osaka

テクノ・ラボ大阪 完成

Techno Lab Osaka

大阪広域生コンクリート協同組合（木村貴洋理事長）が大阪市住之江区に計画していた最先端技術の開発・研究拠点「テクノ・ラボ大阪」が完成した。SDGsの達成とカーボンニュートラルの実現に向けて、生コンクリートに関するカーボンニュートラル・リサイクルシステムの構築と実用化に向けた研究・開発を進める。木材理事長に施設整備の経緯や目的などを聞くとともに、事務所棟と研究棟の機能を紹介する。建物の設計コンセプトや高品質・高精度を徹底的に追求した施工のポイントも聞いた。

広場に集った職員

持続可能な最先端技術を研究・開発

大学・研究機関などと共同開発も

上質な生コンクリートを製造・販売

大阪広域生コンクリート協同組合 理事長 木村貴洋氏

――新社屋を建設することになった経緯は。

「研究施設を備えた新社屋を建てようと夢や希望を語り始めたのは3年くらい前です。創立にも夢を持たないと発展や成長はありませんん。ただ、最初のころは『本当に建つのか』『無茶したらあかん』など半信半疑――場所の選定は。

「たくさんの知恵を借り、組合員の声も聞きながら大阪エリアに進出することにしました。大阪市内の中心部は難しい。大学や研究機関、ゼネコンなどと共同で研究開発もできます。阪神高速道路や大阪メトロ、JR西日本、関西万博が開催され、将来はIR（統合型リゾート）が新たな街がまされ、大阪・関西万博の夢が膨らむ。『技術開発は大阪兵庫生コンクリート業組合を中心に進めていますが、社会のニーズを的確にとらえ、生コン供給側からの提案できるコンクリートの開発を進めます。NEDOの事業にも参画し、CO2削減など環境配慮の新しいコンクリート開発を行うことができます。これまで外注していた耐久性試験や骨材試験を自前で行うことで開発のスピードが上がり、技術力や品質向上につながると期待しています